第３学年４組　道徳科　学習指導案

令和２年１０月１４日（水）　第５校時
第３学年４組（於：３年４組教室）
指導者　沖中　彩夏

本時の授業の視点

視点１　考える必然性や切実感のある発問の在り方

○「なぜぼくはまちがったことをしたのかな、と迷い始めてきたのでしょう。」を中心発問とし、公平と不公平について考えさせ、誰に対しても公平に接することの大切さに気づかせる。

視点２　物事を多面的多角的に考えるための交流の在り方

○ ぼくがまちがったことをしたか、していないかについて、両方の立場からぼくのとった行動について考えさせ、そのことを板書してクラス全体で交流することで、一つの見方だけでなく複数の見方があることを理解させる。

視点３　自己の生き方について考えることができる発問と振り返りの在り方

○「みんなが楽しく遊ぶために大切なことは何でしょうか。」と発問することで、本時の学習を通して課題に対する自分なりの考えを持たせる。

○ クラスのみんなで遊ぶときに楽しくするために気をつけていることについて、考えがどう変わったかに着目し振り返りを書かせることで、今後の生活と関わらせながら自己を見つめさせ、実践意欲へとつなげる。

１　主題名　みんなが楽しく　Ｃ　公正、公平、社会正義
２　資料名　「ぼくのボールだ」
３　主題設定の理由

本主題は、「学習指導要領解説特別の教科道徳」の内容項目Ｃ「公正、公平、社会正義」の「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。」に基づくものである。人間は、自分と異なる感じ方や考え方などに偏った見方をしたり、自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さをもっている。その弱さがある故に、自分好みで相手に対して不公平な態度で接してしまうことも少なくない。不公平な態度が周囲に与える影響を考え、そのことが人間関係や集団生活に支障を来たし、いじめにつながることを理解させることが必要である。誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接しようとする心を育てていきたい。

本学級（男子１５名、女子１５名）の大半の児童が、仲の良い友達がされて嬉しいことや嫌なことなど、相手の気持ちを考えて行動できるようになってきたところである。特に、仲の良い友達のために物を運んであげたり、手伝ったりする姿が多く見られるようになった。また、嫌なことをしている友達に対して「〇〇さんが悲しいよ。」などといった声かけをする児童も見られるようになった。しかしながらクラスのみんなで遊ぶ時に、他の子が拾ったボールを力が強い子が横取りしようとして取り合いになったり、強い子ばかりにボールを回したりする姿が見られる。また、男子の大半が自分が投げたいとい

う気持ちが強く、人のボールを取りしばしば言い合いになる。自己の行動に対して「いけなかった。」と振り返ることができるが、勝ち負けがある遊びになってしまうと不公平な行動をとりがちであることが課題である。このような実態から本主題を設定した。

本資料はドッジボールで遊んでいる主人公のぼくが、同じチームのたかしが拾ったボールを取り、勝ちたいあまりに力の強いまさとにパスをしてしまい、言い合いになる内容である。児童には勝ちたいというぼくの気持ちに共感させながらも、ぼくのとった行動について複数の人物の立場になって公平か不公平かを考えさせたい。そのときに誰に対しても公平に接することの大切さにも気づかせたい。そしてこれまでの経験を振り返り、これからの生活の中でどのように生かしていくかを考え、実践しようとする意欲や態度を育てていきたい。

そこで、指導に当たっては次のことに留意したい。

・導入でクラスのみんなで遊ぶときのことについて、これまでの自分の経験を振り返ることで、教材の内容に関心を持たせ、本時の課題をつかませる。
・「なぜぼくはまちがったことをしたのかな、と迷い始めてきたのでしょう。」を中心発問とし、ぼくのとった行動が公平か不公平かを考えさせ、誰に対しても公平に接することの大切さに気づかせる。
・ぼくが迷いはじめてきた理由をまちがっている、まちがっていないの両方の立場から考え、交流させることで、ぼくには複数の気持ちがあることを理解させる。
・終結で導入と同じ発問をした後ワークシートに書かせることで、授業の最初と最後で自分の考えが変わったことや深まったことを振り返り、今後の実践意欲につなげる。

4　評価の観点

・ぼくのとった行動について、二つの立場から考えることができたか。
・誰にでも公平に接することがよりよい友達関係をつくることに気づき、今後の自分の生活に生かそうとしているか。

5　学習指導過程

（1）ねらい　ぼくのとった行動が間違っているかいないか考え話し合うことを通して、誰に対しても公平に接しようとする道徳的実践意欲や態度を養う。

（2）準備　児童：教科書　教師：ワークシート、iPad

（3）展開

展開	学習活動・学習内容	教師の手だて（○）と評価（◆）
つかむ／	1　本時の課題を把握する。 ・全員で遊ぶときに楽しく遊ぶために気を付けていること **みんなが楽しく遊ぶために大切なことは？**	○自分の経験を振り返りながら、教材の内容に関心を持たせ、本時の課題をつかませる。
深める	2　資料の話を聞く。 3　たかしのボールを取って、まさとにパスしたときのぼくの気持ちを考える。 ・「サンキュー」の後に続く言葉 4　ぼくのとった行動が間違っているかいないか考えを書き、交流する。 「なぜぼくはまちがったことをしたのかな、と迷い始めてきたのでしょう。」 ・間違っているか間違っていないかそれぞれの理由 5　たかしとまさとの立場が反対であったらおなじことをするかどうか考える。 6　課題に対する自分の考えを持つ。 ・みんなで楽しく遊ぶために大切なことは何なのか 「みんなが楽しく遊ぶために大切なことは何でしょうか。」	○iPad を使い、挿絵を見せながら話を聞かせる。 ○「サンキュー」の続きの言葉を考えさせることで、勝ちたいという気持ちに共感させる。 ○吹き出しに登場人物になったつもりで理由を書かせる。 ○板書で意見を視覚化し、多様な考えがあることに気付かせる。 ◆ぼくのとった行動について、二つの立場から考えることができたか。 〈発言、ワークシート〉 ○たかしとまさとの立場を反対にして考えさせることで、ぼくのとった行動が不公平であることに気づかせる。 ○本時の学習を通して課題に対する自分なりの考えをもたせ、全体で話し合わせる。
／まとめる	7　自分の生活を振り返る。 ・最初と今の考えがどう変わったか ・これからの生活でどのように生かしたいか	○ワークシートを活用し振り返りを書かせることで、最初と最後で自分の考え方がどのように変わり、今後どのように生かすか、自己を見つめられるようにする。 ◆誰にでも公平に接することがよりよい友達関係をつくることに気づき、今後の自分の生活に生かそうとしているか。 〈発言、ワークシート〉

６　考察

（1）「視点１　考える必然性や切実感のある発問」について

本時では「なぜぼくはまちがったことをしたのかな、と思い始めてきたのでしょう。」と発問し、自分自身がぼくになったつもりで「まちがっている」、「まちがっていない」の両方の気持ちを考えさせた。そうしたことで、ぼくの「勝ちたい。」という気持ちだけでなく、「本当はたかしくんのボールだったのかな。」などの意見が出てきた。そこからぼくがたかしに対して不公平な行動を取っていたことに気が付くことができた。

交流の様子

課題として、たかしくんがボールを取られた気持ちを共感させるために、ロールプレイングを取り入れてもよいと思った。そうすることで「サンキュー。」と言われたたかしくんの気持ちに、より共感できたように感じた。さらに、たかしくんの気持ちについても児童同士で交流することもできたと考える。

今回の授業では、ぼくがたかしにとった行動を中心に考え、公平か不公平の価値を深めるようにした。しかし、ぼくの行動だけだと価値に気が付きにくいように感じた。道徳的価値を広い意味で考えることのできる授業づくりをするためには、たかし、まさと、こうじの行動にも目を向けさせる必要があった。4 人の行動の良さや問題点を探していくことで、公平・不公平を広い意味で捉えることができると考える。

（2）「視点２　物事を多面的多角的に考えるための交流の在り方」について

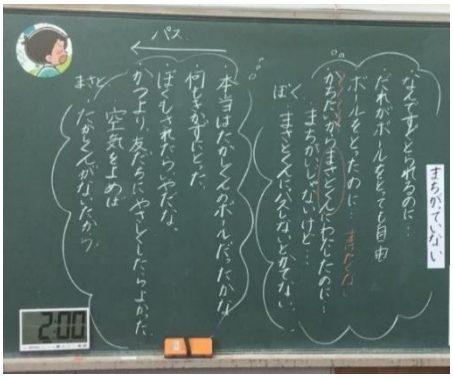
ぼくのとった行動が間違ったことをしているか、していないか、両方の立場からの考えをワークシートに書き、全体で話し合った。両方の面から自分の考えをもつことで交流が深まった。

しかし、多面的・多角的に考えるためには友達と自分の考えを比較しながら交流することがもっと必要だった。子どもたちから出てきた意見を板書する際に類型化することで、新しい気づきへとつながるものだと考える。

（3）「視点３　自己の生き方について考えることができる発問と振り返りの在り方」について

導入で発問したことを終結で再度聞き、振り返りを書かせた。大きい変容は見られなかったが、「みんなに投げさせる。」や「違う人にも投げさせる。」といった、これからの生活に生かそうとする発言が見られた。

本時の導入で発問したときに、公正・公平の価値観を含んだ考えがいくつかでてきた。そのため、授業の最初と最後で実感できる問いかけをする必要があった。そこで、振り返りをする際に、「Ａ考えていたがＢを知ってＢになる」「Ａを知ってＢも知ったから二つを合わせる」「Ａと考えていて色々聞いたがやっぱりＡ」のどれになったかという観点を教師が示すことで、自己の変容を捉えやすくなると考える。また、振り返りを書く前に、「新しく気づいたことにはどんなことがあった？」という投げかけがあると、最初と最後を比較しながら振り返りができると思った。



当日の板書